

JHFREPORT

JHF
Japan Hang & Paragliding Federation



第18回アジア競技大会、PGクロスカントリー競技で日本が男子団体金メダルを獲得！ P2からの報告をご覧ください。

アジア競技大会PG日本選手団に「空の夢賞」

航空スポーツとして初めてアジア競技大会の種目に採用されたパラグライディング。そのクロスカントリー競技で男子団体金メダル、女子団体銀メダルという結果を出し「多くの人びとに航空スポーツの魅力を伝えることに貢献」したことにより、パラグライディング日本選手団が日本航空協会の「空の夢賞」を受賞。9月20日（木）、東京都港区新橋の航空会館で行われた「空の日」航空関係者表彰式で岩崎拓夫さ

んが代表して賞状を受け取りました。

また、この表彰式では、今年1月にオーストラリアでのフライトでクラス

1 ハンググライダーの日本記録を塗り替えたパイロット、服部良亮さんに日本記録証が授与されました。



日本選手団のユニフォーム、胸にメダルの姿で表彰式に。



直線距離393.7km等の日本記録証を手にした服部さん。

スポーツ&LIFE



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

重圧をはねのけチームでつかんだ金・銀メダル

8月20日-29日 インドネシア プンチャック 報告：監督 岡 芳樹

この8月18日から9月2日まで、第18回アジア競技大会（アジア大会）がインドネシアのジャカルタおよびパレンバンで開催された。主催者はアジアオリンピック評議会（OCA）。そしてパラグライディング競技がアジア競技大会では初めて正式種目として採用された。これまでも同じくOCAが主催するアジアビーチゲームズでパラグライディングは正式種目として行われていて日本も参加してきたが、いかにせんアジアビーチゲームズは一般的に知名度が低く、マイナーなマルチイベントとして認識されており、JOCとしてもあまり積極的にサポートする感じはなかった。一方、アジア競技大会は、歴史もありオリンピックのアジア版としての位置づけもされていて、JOCは積極的にサポートを行っている。

今回のパラグライディング日本代表は、役員として大山拓也チームリーダー（日本航空協会）、監督の私、選手として男子は岩崎拓夫、上山太郎、呉本圭樹、中川喜昭、廣川靖晃の5名、女子は平木啓子、望月奈緒、山下敦子の3名。総勢10人。

参加国は、日本、アフガニスタン、イラン、インドネシア、カタール、韓国、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、タイ、台湾、中国、ネパ

ル、パキスタン、香港、マレーシア、モンゴル、ラオスの18の国と地域。

パラグライディングは他の競技とは別の会場（ジャカルタ市から南に約100kmのプンチャック）で行われたため、いわゆる選手村ではなく、街中のホテルに一般観光客と一緒に泊まることになった。

大会は前半の5日間（公式練習日1日含む）がアキュラシーで、団体戦で6本、個人戦で（団体戦の6本を含み）10本を飛び、後半の6日間（公式練習日1日含む）がクロスカントリーであった。前半のコンディションは天気もほぼ晴れでサーマルが午前中から出て明らかにクロスカントリー向き、後半は曇りベースが多く午後になってサーマルが良くなる、アキュラシー向きとなってしまった。

非常に難しいコンディションではあったが、アキュラシーは終わってみれば団体戦では男子金メダルが地元インドネシア、銀メダルに韓国、銅メダルにタイ、日本は9位。女子は金メダルにタイ、銀にインドネシア、銅に韓国、日本は5位。個人戦では男子の金にインドネシアのジャフロ・メガワント、銀にタイのジラサック・ウィットイータム、銅に韓国のチュルソ・リー、呉本12位、廣川17位。女子では

金にタイのスナパット・ブチョン、銀に韓国のダギョン・リー、銅にインドネシアのリカ・ウイジャヤンティ、平木8位、山下12位となった。

一方クロスカントリーは、日本と韓国の一騎打ちかと思われたが、気負いすぎたか日本男子はまさかの4位スタート。予想外にもインドネシアとネパールが善戦し、インドネシア、韓国、ネパールの順。女子は順当に韓国、日本、インドネシアの順。しかしコンディションに慣れるにしたがって日本男子は底力を発揮し、タスク3を終わって2位にジャンプアップ、タスク4でトップに。女子はタスク1でランディング後に転倒し手のつき方が悪く手を骨折した山下選手を欠きながら、韓国とトップ争いを繰り返し日本は2位。

そして迎えた最終のタスク5。距離は5タスク中で1番短い12.5kmだが、コンディションがいまいちで、タイミングを外すとミニマムを取れずにランディング、タイミングが合えばゴールという波乱のタスクとなった。岩崎と上山選手の2人ゴールに対して3人ゴールのネパールが猛迫するも27点差で日本がトップを死守し、ついに金メダルを獲得。一方女子は、韓国が1人ゴールに対し日本は平木と望月選手の2人がゴールして追い上げるが、望月のゴールがタスク終了時間14:00に遅れること10秒となり、距離得点のみとなり73点とどかず銀メダルとなってしまった。

「仲間への想いが壮挙に繋がった」

大山拓也チームリーダー

私が大会を通じて感じたのは「安全の重要性」と「仲間への想い」でした。

CIVLから派遣された安全管理者の「2022年の杭州、2026年の名古屋でのアジア大会においても競技種目として選ばれ、いつかはオリンピック種目となるためにも、皆が安全に飛ぶことが何よりも重要だ」との発言は印象に残りました。また、代表選手の皆さんが普段は競い合っているライバル同士にも拘らず、時には自分を犠牲にしても仲間のために戦う姿は感動的でした。



飛び立った山下敦子。画面左下にメインランディング場が見える。

た。特に失敗が許されない状況でも、負傷帰国した仲間のために精一杯奮闘された平木選手、望月選手の姿には胸を打たれました。その「仲間への想い」の強さがハング・パラグライディングを愛好するすべての人々に勇気と希望を与えるとともに、日本の航空スポーツの歴史に新たな一歩を刻む壮挙に繋がったのだと思います。

「チーム一丸となりメダルを獲得」

岡芳樹監督

アジア競技大会で初めてパラグライディングが正式種目となり、JOCからのフルサポートを受けての選手団派遣となって、選手は今まで以上に日本を背負って戦うという意識を強く持ったことと思います。また、社会一般、メディアの反響もこれまでにないものとなりました。そして、競技としてのパラグライディングを広く一般社会に知ってもらう非常に良い機会ともなりました。そのためには是が非でもメダル、それも金メダルを取ることが非常に大事であるとの認識でチームを編成し、チーム一丸となって戦い、その目的を達成できたこと（クロスカントリー女子で金メダルを逃したのは残念でしたが）に大変満足するとともに、ほっとしています。素晴らしい成績を残してくれた全選手、連日、日本から応援・サポートをしてくれたフライヤーの皆さんに感謝いたします。

選手8人に聞いた

印象に残ること／日本代表の感想

いつもと勝手の違う競技、日本代表のプレッシャー、それらを乗り越えてメダルを獲得した8名の選手たちには二つの質問に回答してもらいました。

【質問1：今回の競技で最も印象に残っていることは？】

【質問2：「アジアのオリンピック」に日本代表として出場した感想は？】

□岩崎拓夫

【1】アキュラシー競技は、全く歯が立ちませんでした。初参戦とはいえ悔しさが残るものになってしまったというのが率直な印象です。クロスカントリー競技では、対地高度が取れない厳しいレースが続きました。ゴールの意識と自分らしいフライトがいい具合に合わさって、最終日にはトップゴール



アキュラシーは初参戦の呉本圭樹、ターゲット中心を狙って慎重にランディング。

&金メダルと感動のあるものになりました。

【2】多方面から応援をいただいたりメディア報道されたりと、これまでの競技人生で一番注目を受けました。今回の大会でパラグライダーが少しでも注目されて発展することに繋がればと思っています。そして、4年後も種目に採用され同じ舞台に立てるよう日々練習を続けていきたいです。

□呉本圭樹

【1】個人戦のないXCレースというのは初めてでしたが、普段ライバルである選手たちを応援する、そして自分もそれに合わせたフライトをするということが新鮮で、普段の競技とは違う興奮がありました。当然、そこで得た勝利というものはまた格別なものでした。アキュラシーは初めての試合でしたが、今までの技術だけでは勝つのは難しく、やはり練習量の不足が強く感じられました。

【2】日本選手団のユニフォームなど一式を渡され、それに袖を通して出ていくときには、普段とは全く違う気持ちで、胸を張りたくなるものでした。多種目で同じように日本代表として参加している選手達とも、同じ土俵で話ができたとするのは、パラグライダーというスポーツが飛躍できる大きな一歩だと身が引き締まる思いでした。普段の試合とは雰囲気も内容も全く違いましたが、これからパラグライダーの競技を多くの人に知ってもらえるいい

機会だと感じ、参加選手という枠だけでなく、こうした大舞台の勉強にもなりました。

□上山太郎

【1】クロスカントリー競技3日目が一番印象的でした。2日目でトップと1000点差がつき、金どころか、メダル獲得にも後が無い中、私は判断ミスから早々にランディング。もの凄い後悔と反省が渦巻く中で空を見ていると、廣川選手のトップゴールを皮切りに、男女全員がゴールを決めてくれた瞬間に、喜び、感謝、安堵などの感情が爆発しました。失敗したのに、こんなに嬉しい日は初めてだったし、いつものライバルたちがすごく頼もしく格好良く見えました。

【2】準備段階から重みは感じていましたが、帰ってきてからの周囲の反応に一番驚きました。一生分のおめでとうを言われた気がします（笑）。普段は事故報道などでしかなかなか注目されませんが、今回は良いニュースを届けられたので、少しでもフライヤー・コンペティターが増えれば良いと思います。

□廣川靖晃

【1】クロスカントリー1日目に3人ボムアウトして落ち込んでいるところに、岩崎選手がトップゴールしてきたこと。3日目にトップゴールしてチームに貢献できたこと。そして5日目にも3人ボムアウトして落ち込んでいた



クロスカントリーのテイクオフを待つ選手たち。

ところに、また岩崎選手がトップゴールしてきたこと。個性の違うメンバーがそれぞれ力を発揮して金メダルを取れました。

【2】ナショナルトレーニングセンターでのドーピング検査から始まって、日本選手団揃いの制服で参加した結団式、金メダルを獲得してJapanのジャージを着て表彰台で歌った君が代。帰国後はメダルをもって地元の市役所へ市長表敬訪問。全てが初めての経験で、まさか自分がこんな経験ができるとは思ってなかった。パラグライダーをやっていて本当に良かったです。

□中川喜昭

【1】クロスカントリーで金メダルを獲得できたこと。初日の失敗から、3・4日目で挽回、僅差で逃げ切れたという展開は生涯忘れないだろう。

【2】アキュラシーの苦戦は予想していたことで、結果は冷静に受けとめていた。しかしその苦しい戦いに全力で取り組んだことで、肉体と精神両方に疲労を溜めていたと思う。クロスカン



岩崎拓夫、ゴール！ クロスカントリー男子団体金メダル獲得に大貢献。

トリー前半の不調は、その疲れから来たのであろう。選手全員がクロスカントリーパイロットというチーム編成から、メダル獲得は当然という重圧もありました。しかしそれらマイナス要因をはねのけて、男女ともメダルを獲得できたことは素晴らしい。このチームに参加できたことを光栄に思います。

□平木啓子

【1】クロスカントリーの最終日、金メダルへの望みをかけて闘志むき出しに一番に飛び出しました。そうしたら、他国の女子たちにも闘志が移ったらしく、男子が牽制しあって出ない中、次々と女子選手ばかりが飛び出してきたことが、なんだかたまらなく嬉しかったです。

【2】今までに何度も国際大会に出場してきたので、試合前に緊張するなど全く思いもよりませんでした。すぐ緊張した自分がそこにいました。そのプレッシャーからか、初日に普段では考えられない大きな失敗をしてしまいました。その後重圧をはねのけ、普段通りかそれ以上の力を発揮することができました。アジア大会という大舞台で、日本代表という重責を背負っての試合を経験することで、一段上のステップに上がったように感じています。素晴らしい経験を積むことができました！

□望月奈緒

【1】クロスカントリーの2つのゴールです。3日目、渋い中でも自分のペー



アキュラシー男子個人優勝はジャフロ・メガワント。



アキュラシー女子個人はヌナバット・ブジョンが優勝。



クロスカントリー男子団体表彰、日本が表彰台中央に！



アキュラシー男子団体は開催国インドネシアが勝利。



アキュラシー女子団体はタイが金メダルを獲得。



クロスカントリー女子団体、1位韓国、2位日本。

スで進めることができ、平木選手に続いて女子2位ゴール。日本チームみんなで喜びを分かち合えたこと、高得点が得られチームに貢献できたことがとても嬉しかったです。そして、もう一つは最終日のゴール。スタート時間が延長されるほどコンディションが渋い中、最後の最後、高度も時間もギリギリの状態を出せるスピードを全て出し祈りながらESラインを切りましたが、願いは届かず、ゴールシリンダーを通過したのはタスククローズの10秒後。ゴールをしたものの悔いの残るレースとなりました。個人戦では感じるのできない、チームならではの大きな喜びや責任を肌で感じられたことがとても印象に残っています。

【2】 男女ともにクロスカントリーのトップ選手で構成されたこの心強いチームの一員になれたこと、日本を背

負って戦えたことは今でも夢のようです。そしてアジア競技大会の様々な競技の一つに選手として参戦できたことを誇りに思います。

□山下敦子

【1】 フライト中は常に緊張感と戦う一方で、待ち時間が長いアキュラシー競技では、自分のコンディションを一日中保つことが難しかった。加えて、大きな大会における選手のプレッシャーは想像を遥かに超えるものであることを肌身で感じた。クロスカントリー競技について、ブンチャックは条件の読みが難しくXCエリアとしては非常に特殊だと感じた。通常の戦い方から随分とシフトさせないとレースにフィットしないだろうと練習日に感じ、上手くシフトできたことが初日のフライトに繋がった。

【2】 想像を遥かに上回るプレッシャーがあった。アキュラシー競技の最終ラウンドが終わり、全ての選手が解放感を共有し喜び合った瞬間が忘れられない。表彰式でインドネシア国歌が斉唱された時には、「次は私たちの君が代の番だ!」と気合が入った。日本代表ならではの感じ、心が躍った。



航空関係者表彰式。前列左からJHF内田会長、望月、平木、山下、呉本。後列左から上山、廣川、大山チームリーダー、中川、岩崎。

JHFの動き

三つの日本選手権

日程・開催地を決定

2018年のハンググライディングとパラグライディングアキュラシー、2019年のパラグライディング（クロスカントリー）、三つの日本選手権の日程・開催地が決まりました。日本選手権者の座を勝ち取ろうと頑張る選手たちの応援にお出かけください。

●パラグライディングアキュラシー日本選手権 in 小山

11月10日（土）・11日（日）

栃木県小山市 小山グライダー滑空場

●ハンググライディング日本選手権2018 in 朝霧

11月22日（木）～25日（日）

静岡県富士宮市猪之頭朝霧高原 西富士友の会エリア

●2019パラグライディング日本選手権 in 獅子吼高原

2019年4月24日（水）～29日（月）

石川県 獅子吼高原スカイレジャーエリア

PG日本選手権（XC）

台風の影響で不成立

9月21日（金）～24日（月／休日）、茨城県足尾山エリアにおいて『パラグライディング日本選手権2018 in IBARAKI』を開催しました。アジア競技大会で金

メダル・銀メダルを獲得した選手たちも参戦、おもしろい競技展開が期待されましたが、大型台風の影響によって23日のみのタスク成立。残念ながら日本選手権としては不成立に終わり、Jリーグ大会として下記のとおり順位がつけました。

[総合]

- 1位 上山 太郎
- 2位 中村 浩希
- 3位 青木 和広
- 4位 高杉 慎吾
- 5位 呉本 圭樹
- 6位 吉田 和博

[女子]

- 1位 望月 奈緒

- 2位 金本 知子

- 3位 中目みどり

[スポーツクラス]

- 1位 金本 知子

- 2位 青木 政昭

- 3位 小林 大晃

- 4位 川名 美江

- 5位 佐藤 研斗

- 6位 佐藤 仁一

2019年JHFカレンダー

12月に頒布開始の予定

毎年好評をいただいているJHFカレンダー。今年も12月から頒布の予定です。フォトコン入賞作品をはじめ美しい写真を採用。お楽しみに。



選手・役員勢揃い。前列中央に総合1位の上山、その左に女子1位の望月、右にスポーツクラス1位の金本各選手。

■福井しあわせ元気国体デモスポ開催 福井県フライヤー連盟

第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体」デモンストレーションスポーツ パラグライダー

開催日：平成30年9月1日（土）

*予備日9月2日（日）

会場：スキージャム勝山エリア

主催：公益財団法人日本スポーツ協会

文部科学省／福井県／勝山市

主管：福井県フライヤー連盟

福井県で50年ぶりに開催された国体にパラグライダー（アキュラシー）がデモンストレーション競技として参加。全国各地から34名の皆さんにエントリーしていただきました。

秋雨前線の南下により、天気は危ぶまれ、関係者は天気予報に一喜一憂してやきもきしていましたが、前日遅くの予報で、競技は可能と判断し、予定通り9月1日（土）に開催することに決定しました。

開会式は雨も降らず、ときおり陽も射し選手の期待も膨らみました。しかし選手の皆さんが、テイクオフへ移動すると、無情にも雨が降り出しました。

午後からに期待して一時退避しましたが、雨はやみません。

今国体は、開始した後は原則として延期は認められていなかったのですが、

勝山市の役員の方が県に交渉し、延期の承諾を取り付けてくださいました。

翌日の9月2日（日）は、予報が好転し、絶好のフライト日和になりました。

選手の皆さんの希望で、当初予定していたテイクオフゾーンを、少し下げた位置に移動し、競技は開始されました。高度が低いので、アキュラシー競技は容易かと思いきや、逆に変化する風に対応しにくく、大変難しくなり、競技の行方はテイクオフ順や、風に左右され、大変面白くなりました。

国体の選手が懸命に競技しているその上空では、JPAの「ジャム勝・サマーカップ2018」が開催されていて、パラグライダーの花が咲いています。

これこそ、パラグライダーのフェスティバルともいえる、華やかで楽しい大会となりました。組織の枠を超えて、空は一つを実感した素晴らしい大会になりました。

競技は早いテンポで快調に進み、多くの選手がパッドを踏みました。アキュラシー競技の国内上位選手も多く、レベルの高い大会になりました。

第3ラウンドで、和田浩二選手がセンタースポットを踏み、アラームが鳴った時には、観客やスタッフから、大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

競技は終了予定時間の午後3時になる前に規定の最高ラウンド数の6ラウンドに達し、終了しました。

結果は次のとおりです。

優勝	梅迫 賢一	兵庫県	364点
準優勝	和田 浩二	静岡県	725点
3位	平野 竜二	兵庫県	860点
4位	川村 眞	宮城県	1515点
5位	下野 高敬	兵庫県	1693点
6位	加門 伸二	大阪府	1807点

■小・中学生のための体験会

東京都ハング・パラグライディング連盟

8月4日（土）・5日（日）に東京有明にある東京臨海広域防災公園において、東日本大震災復興支援熱気球イベント「空を見上げて」が行われ、日本航空協会の航空スポーツ教室も開かれました。これに東京都ハング・パラグライディング連盟が協力し、パラグライダーのふわり体験とハンググライダーのセーフティローピングの体験搭乗を行いました。体験者は小・中学生です。

4回目の協力となる今回、両日とも午後1時には気温35度を超える猛暑予報となりましたが、パラグライダーは4日に35名、5日に30名、ハンググライダーは4日に37名、5日に23名の方々に体験してもらいました。

今回も子どもたちののはじける笑顔を見ることができた体験会でした。猛暑のなかご協力くださった皆さん、ありがとうございました。



国体選手とJPA大会選手、和気藹々の歓迎レセプション。



国体マスコット「はぴりゅう」と入賞者の皆さん。



アキュラシー熱戦の上空ではJPAの大会が。



ふわり体験に子どもたちの笑顔がはじけた。



熱気球が見守るなかローピングでハング体験。

価値観を共有し安全への取り組みを。

JHF安全性委員会 竹村 治雄

安全意識を高める活動を継続

8月の事故ゼロキャンペーンにご協力いただき、ありがとうございました。キャンペーンでは、210のスクールおよびクラブに事故ゼロキャンペーンの案内チラシを送付するとともに、登録スクールに対してキャンペーン期間中のアクシデント、インシデントについて報告をお願いしました。期間中のインシデント等について都度ご報告いただいたスクールもありました。ありがとうございました。

また、キャンペーン終了後に期間中の状況について改めて94の登録スクール宛に報告を求めましたところ、32のスクールから回答が寄せられました。ご協力に感謝します。

期間中、重大事故はありませんでしたが、ツリーランしたところ引っ掛かった木が折れて怪我をする事故がありました。今後のツリーラン回収の際には、ツリーランした木がパイロットと救助者の荷重に耐えられるかどうかも見極める必要があるようです。

キャンペーンを実施することで、パイロット一人一人の安全に対する意識を高めることができたのではないかと思います。ご協力ありがとうございました。今後も、必要に応じて安全に対する意識を高めるための活動を行っていきますので、ご協力をお願いします。

ヒューマンエラーを減らすために

パラグライダー・ハンググライダーの事故の多くにヒューマンエラーが関係していることはよく知られていることですが、そのエラーをなくすための方策もいろいろ考えられています。例えばチェック5タグによる自己点検や、テイクオフでのお互いの準備状況をチェックするクロスチェックが有効であることは、どなたもご存知なことだと思います。一方で、それらを実践しているパイロットはあまり多いように思えません。

教育心理学者のブルームは、学習目標は、認知的領域、情意的領域、精神運動的領域に分類できるとしていま

す。ここで、一般的な知識、例えば「ブレークコードを引けばパラグライダーは引いた方に旋回する」という事実は認知的領域に属する学習です。しかしながらこの事実を知っていても、パラグライダーでフライトすることはできません。どの程度ブレークコードを引けば機体がどう反応するかということを経験して学習しなければなりません。これは精神運動的領域と呼ばれていて、いわゆる体で覚える、あるいは技能と呼ばれるものになります。

これに対して、情意的領域とは、知識や技能を獲得した上でそれに基づいてどう行動するかという学習になります。例えば、「化石燃料の使用は地球温暖化を加速させる。」という事実は誰でも知っていますが、そのため化石燃料の使用を減らす努力をするかどうかは人それぞれです。同じように、プレフライトチェックが有効であることは知っていても、他人に見える形で実施するかどうかは、情意的領域の学習となります。

学習目標の3分類でも情意的領域の学習が一番難しいと言われています。技能証の検定項目に入っているからプレフライトチェックやクロスチェックを行うのであれば、技能証検定に合格すれば、その後実施するかは本人任せになってしまいます。本当にチェックを行うためには、それに対する価値を受け入れて、自ら進んで実施するという態度を身につける必要があります。

この、情意的領域の学習には、自分の周囲の状況が関係しているといわれています。すなわち、プレフライトチェックの例では、インストラクターやクラブやスクールのベテランのフライヤーが率先して、クロスチェック等を励行している状況を体験することが有効です。それにより、安全への取り組みへの価値を共有して、自発的な行動につなげることができます。

パイロット各人が当事者意識を持つ

さて、私事ですが、9月にフランスのサンチレールで開催されたCoupe

Icare（イカロスカップ）に参加してきました。その展示会場では様々なメーカーの展示に混じって、フランスのパラ・ハング・カイトなどのフリーフライトを統括しているFFVLもブースを出していましたので、立ち寄ってFFVLの安全に関する取り組みについて尋ねてきました。ちょうど、パラの国内委員のJacques Dupasさんがブースにおられていろいろお話を伺うことができました。FFVLでも、様々な方法で安全の確保に取り組んでいるのですが（FFVLの安全に関するページ<https://federation.ffvl.fr/pages/securite-technique>）、特にパイロット一人一人の意識を高めることができるように、クラブに安全の担当者を必ず配置しているとのことでした。担当者は安全に関する意識を高めるファシリテーターで、何らかの責務を負う立場ではないそうです。そして、担当者を中心に定期的に所属パイロットによるミーティングを開催することを推奨しているとのことでした。これは、一人一人のパイロットが安全に関わる当事者として意識を持つことを重視しているためだと考えられます。

また、イカロスカップの期間中に誰でも参加できる安全に関するミーティングを開催し、そこでインターネットで募集した安全を確保するための提案の中から優秀なものを表彰する活動も行っているとのことでした（詳細は<https://federation.ffvl.fr/pages/fiches-p-dagogiques-et-documentation-0>）。ここでも、積極的にフライヤーからの情報を収集している点が、個人の権利と責任を重視するフランスらしい取り組みと感じました。

暑い夏が終わり、稲刈りも進めば秋のクロスカントリーフライトが楽しめるシーズンです。事故ゼロキャンペーン期間は終了しましたが、心の中では毎日がキャンペーンと思って引き続き安全で楽しいフライトを心がけてください。





第5回JHFハングライダー・パラグライダーフォトコンテスト 最優秀賞「夢心地」 撮影：前島聡夫

写真で空の仲間を増やそう！

第5回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 入賞作品発表

ハンググライダーやパラグライダーの写真を多くの人に見てもらうことによってこのスポーツの普及に繋げることが目的のJHFフォトコンテスト。今回も「ハンググライダー、パラグライダーの楽しさ、美しさを表現した写真作品」をテーマに、多くの応募をいただきました。ありがとうございます。

フォトグラファーの嘉納愛夏さん、山本直洋さん、安田英二郎JHF副会長も加わり厳正な審査を行った結果、前島聡夫さん撮影の「夢心地」が最優秀賞に輝きました。

前島さんをはじめ入賞された皆さん、おめでとうございます！
(最優秀賞作品は8-9ページに掲載)

最優秀賞

前島聡夫「夢心地」

撮影地：静岡県朝霧エリア

受賞者から●写真はクロカンセミナーに参加中に撮ったものです。とても減率の良い日で強いサーマルを捕まえられれば雲よりも高い高度へ行ける、珍

しい気象条件の日でした。逆光に照らされる雲とその下に大きくそびえ立つ山脈。雲の上から見下ろす景色はまさに「夢心地」でした。セミナー中ですので、本来であれば写真に写っている先導パイロットについて行くべきところですが、その景色に飛びの血以上に写真の血が騒いでしまい、撮影を優先してしまいました。ちなみにフライトは貴重な高度を撮影でロスしてしまい、先導パイロットについて行けず…タスクコンプリートならずの残念な結果となりました(笑)

嘉納評●アイスブルーの濃淡がまるで日本画のよう。風景の美しさに感動しながらシャッターを切られたのではないのでしょうか。鳥のように雲間を飛ぶパラグライダー、とても臨場感があります。ワイド画面に敢えて対象を遠景で捉えることにより、非日常のスケール感を生みだしています。計算された画面構成はさることながら、撮影者の方は偶然ではなくこのシーンに出会ったのかな？と推察。自然の中で行うス

ポーツであり、気象天候は飛ぶ上でも撮影するにも重要なポイント。その点でも見事です。次回もぜひ独自の視点・構成での作品を見せていただけたらと思います。本当に美しい。おめでとうございます。

山本評●大空を気持ちよさそうに飛んでいるパラグライダー。そのさらに上から絶妙な構図で撮影しています。広角で雲と光をうまく画面に取り入れ、個人的にとっても好きな雰囲気の商品です。動力のあるモーターパラグライダーとは違い、上昇気流を使って上昇する通常のパラグライダーでこの高度まで上げるのは容易ではありません。さらにそこまで行ってカメラを構え、しっかりと構図を決めて撮るにはそれなりの経験が必要です。パラグライダーだけではなく、写真の知識、技術も必要となります。ただ欲を言えば露出を調整してもう少し白飛びを抑え、雲の向こうの階調を出せば完璧でした。いずれにせよ最優秀賞にふさわしい作品です。

優秀賞 村山哲哉「秋のフライト」



優秀賞

村山哲哉「秋のフライト」

撮影地：滋賀県彦根市荒神山

受賞者から●この写真は、彦根市の荒神山にあるハイキングコースから撮影しました。季節によって変わる山々を背景に、飛び立つハンググライダーの姿を見ることができるお気に入りのスポットで、何度も撮影に訪れています。山の木々が色づく11月上旬、太陽の光が差し込む中、手前の紅葉を300mm望遠レンズで前ボケさせ、幻想的な作品にしました。風のタイミングをみて飛び立つハンググライダーをじっくり待ち、何枚も撮影した中のベストな一枚です。春には美しい新緑を背景に飛ぶ姿も見ることができます。

入選



中村正哉「空中交差点」

撮影地：山口県岩国市高照寺



林勇孝「BIG FUJIYAMA」

撮影地：山梨県忍野エリア



福田武史「ノイシュバンシュタイン城とともに」

撮影地：ドイツ

嘉納評●紅葉カラーの水玉を前に配し、おとぎ話の絵本の挿絵のようなファンタジックな一枚になっています。他の応募作品にはなかった手法です。ハンググライダーとパイロットが、1/2500の高速シャッターを切ることによってピタッと画面の中で止まっており、ピントもばっちりきまっています。被写界深度を利用した画面の中でジオラマのような雰囲気も醸し出しています。ピントや発想、センスは申し分ありません。ただ、水玉で画面全体を覆い、奥に薄っすら山の木々が写っているふうに撮るともっと素敵だったのでは、という気がします。好みかもしれませんが、また物語のような素敵な写真をお待ちしています。おめでとうございます。

山本評●ぱっと見で他の作品とは異なる構図、色使いで目を奪われました。飛んでいるハンググライダーをただ撮るだけではなく、このように手前に大胆にボケを入れることでとても印象的な作品に仕上がっています。手前のボケている木が紅葉で色づいているのに対し、奥の木々が緑であることでハンググライダーが引き立てられています。空撮ではなく地上での撮影ですが、飛んでいるハンググライダーを画面のどこに入れて切り取るか構図を練り、楽しみながら撮影されたのではな



tannaflayer「芦ノ湖と富士」

撮影地：静岡県丹那エリア



加藤かおり「イタリア バッサノ」

撮影地：イタリア

いでしょうか。コンパクトデジカメやスマホの性能が上がって誰もが綺麗な写真を撮れるようになりましたが、やっぱりまだまだ一眼レフはいいなと思わせてくれる作品です。

審査員総評

嘉納愛夏



185点と、たくさんの応募作品でした。ハンググライダーの作品が増えてとても喜ばしく思います。ただ、普通に横から撮った写真が多く、また、同じシーンのカット違いを複数枚応募されている方が多く、そこは残念でした。応募作品には「これ!」という自信のある一枚を。

今回はなぜか春に撮られた写真がほぼありませんでした。スカイスポーツということもあってブルーの画面が多いのも分かりますが、もう少し色彩豊かなものも見たかったです。このコンテスト、カレンダー写真の選考も兼ねているので、季節のバリエーションというのはとても大事なんですよ。雪山や初日の出、桜、鯉のぼりやクリスマス



中村浩希「キラリ」

撮影地：愛知県空ともウインドパーク



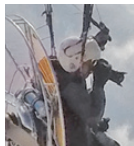
富樫岳「夕方は最高!」

撮影地：山形県南陽スカイパーク

スといった目で季節・月がわかる写真は見ていて楽しく、選ばれやすいと思います。もちろん、写真的にしっかりしている、というのが重要です。撮りためて、また1年後にお見せいただけたらと思います。ありがとうございました。

山本直洋

2年ぶりのフォトコンテストでしたが、クオリティの高い作品が多く集まりました。360°カメラを使用したものや、小さなアクションカメラを活用した作品などもあり、バラエティに富んだ内容でした。今回で5回目となり、第1回の時と比べると全体的にクオリティが上がってきたように思います。カメラの性能がどんどん上がってきたことで、撮影機材のことにあまり詳しくないフライヤーでもとりあえずどこかにカメラを取り付けて飛ぶだけで素晴らしい写真が撮れたりします。今まで写真にあまり興味なかった方もとり



あえず小さなカメラを付けて飛び、気軽にフォトコンテストに応募してみてください。次回はさらに多くの作品が集まることを楽しみにしております。

安田英二郎

フォトコンテストの審査を毎年見てきましたが、光や影をうまく使った写真としての完成度の高い作品、これまでにない斬新なアングルの作品、一瞬のシャッターチャンスを生かした作品、あるいは動物や人を写しこんだ楽しそうな作品、そういう写真が多く、賞を取ってきた気がします。今回もそういう作品が審査員から高い評価を受けました。また、カレンダー用の写真については季節性が大きなテーマになるので、新年にふさわしい写真や季節を代表する被写体を写し込まれると選ばれやすくなります。地上からの撮影でも入選は充分可能です。今後も素晴らしい作品をフォトコンテストに応募してください。



応募作品でカレンダー

今回のフォトコンテスト入賞作品と、応募作品から選んだ写真で、2019年のJHFカレンダーを作り、頒布します。

仕上がりサイズはA4。これを上下に広げて各月A3サイズの縦型吊り下げタイプです。JHF登録スクールでご購入いただくか、JHF事務局にお申し込みください。頒布価格は1冊500円です。頒布の準備ができ次第、詳細をJHFウェブサイトでお知らせします。

今後もフォトコンテストなどで作品を募り、そのなかから優れた写真を選んでカレンダーを作っていく予定です。パラグライダーやハンググライダーとともに四季の表情を切り取った写真を撮りためて、募集時には気軽にご応募ください。

空中撮影ができるほど飛ぶのが上手じゃないから……というあなた、飛ぶながらの撮影にこだわることはありません。地上でのおもしろいアングルを考えてみてください。

学連ニュース

パラグライディングは尾神岳、ハンググライディングは足尾山で夏の学生大会が行われた。各々の大会の様子を紹介する。

●尾神岳Paraglider Student Cup

8月21日～23日に尾神岳で開催。クロスカントリーとデュレーションの2クラスのほか、A級生も合宿クラスとして参加し、ショートフライトとフリーフライトを行った。

1日目はレースコンディションでなかったため、Openクラスは不成立だったが、Sportクラスの選手は難しい条件の中30分以上のフライトをした。

2日目はOpenも成立したが、上位2人の選手以外の記録がミニマム距離を超えなかったため同率で3位となった。



尾神岳Paraglider Student Cupの参加者たち。

Sportは最長飛行時間72分と1日目と比べるとよいコンディションであった。

3日目は風向、風速ともに悪く、競技は行わなかった。

総合してOpenは田邊万作選手、Sportは畔柳大樹選手が優勝した。

●nasa STUDENT CUP

8月29日～31日に足尾山で開催。初日はTOが雲中し各クラス競技不成立。しかし下山しようとしたところ雲が晴れたので、選手はフリーフライトで全員飛ぶことができた。夜にはバーベキューを行い大いに盛り上がった。

2日目は晴れてはいるものの南西風によりなかなかTOできず。午後になりタイミングを見計らいテイクオフ。渋めながらも1st、2ndは競技成立。2ndはリッジで粘った竹中選手がデイリートップ。1stは2位の選手の倍近く長く飛んだ川口選手がデュレーションで点を稼ぎトップ。Expertはミニマム距離を超えず、不成立。

3日目は想定よりTOの風が良好で競技スタート。2ndはしっかりと上げた脇村選手がトップ。1stは各選手パイロンがとれずに苦しむ中5つとった

児玉選手が1位。Expertは飛んだものの競技成立条件を満たさず不成立。

総合して1stは児玉智雅選手、2ndは竹中選手が優勝した。

今年度は台風21号の影響により、砂丘合宿は中止という心苦しい結果になってしまったため、来年度開催できることを心から願っている。



選手宣誓は東工大の板橋宏樹選手。



nasa STUDENT CUPの参加者たち。

アキュラシーのおもしろさは やってみなくちゃわからない

その3

8月にインドネシアで開催されたアジア競技大会（アジア大会）では、パラグライディングのアキュラシーとクロスカントリーが競技種目になりました。日本はクロカンで男子チームが金、女子チームが銀メダルを獲得！アキュラシーでは惜しくもメダルを逃しましたが、この競技に目を向ける人が確実に増えたのではないのでしょうか。

さて、今回もパラグライディング競技委員会の鈴木洋史さんに、アキュラシーの魅力を語ってもらいましょう。

「間のスポーツ」だからおもしろい



宮城県白石でパラグライダーを始め、アキュラシー歴は約5年になった鈴木です。

前は僕がアキュラシーにはまったのは、レベルアップするのが実感できたから、また競い合う楽しさを知ったからだとお話しました。もっと考えてみると、「間（ま）のスポーツ」だからこそ、アキュラシーに深いおもしろさを感じるのだと思います。

野球も間のスポーツ。一球一球、間

があって、1打席がアキュラシーの1本みたいな感じですね。全打席ホームラン、全ラウンドでゼロスコアのつもりで臨むのだけれど、状況は刻々と変化する。アキュラシー競技では普段は6ラウンドまで競技するので、飛んで降りて、次のラウンドのテイクオフ順が来るまでの間に、風の変化に応じた組み立てを考え、他選手との駆け引きもしつつ、「ここでやんなきゃ勝てないぞ！」と自分にカツを入れ、気を引き締めて最善を尽くす。前のフライトを振り返ってミスを修正し、ポジティブに次のラウンドに臨む……間があるからこそですね。失敗を引きずる人もいるし、考え過ぎて「間」が「魔」になることもあるけれど（僕も初表彰台がかかったラウンドで大ボカをしました）、やはり、このアキュラシー独特のペースがおもしろいなと思います。

他選手との駆け引きといっても、火花が散るようなものじゃなくて、選手はみんな身内みたいな感覚です。上位の人がダメ出しをしてくれるし、年輩の方は「早く自分を倒してくれないと引退できない」なんて言いながら、い



アジア競技大会アキュラシー競技での廣川選手。

ろいろ教えてください。アキュラシージャパンリーグではチーム戦もあるので、チームメイトと教え合って勝ちを目指す。そういう面も楽しいですね。教えてもらうことで意外な気付きもあります。

パラグライディング競技といえばクロスカントリー。そんなイメージを持つ人は多いでしょうが、クロカンに固執しないで「二刀流」もいいのでは？クロカンもいい、アキュラシーもいい、まず、やってみましょう！

*JHFパラグライディングアキュラシージャパンリーグ（PAJL）の大会は、技能証明した教員またはエリア教員の承認があれば、ノービスパイロットから参加できます（JHFフライヤー登録が有効であること）。ぜひ選手としてアキュラシーのおもしろさを実感してください。

JHF 型式登録機／機材情報登録機

フライヤー会員登録、技能証制度、機体登録制度が、JHF活動の根幹である三本柱です。この三本柱のひとつ、機体登録制度をより広く知っていただくために、新規登録機情報を掲載します。

現在、JHFでは二つの機体登録制度、「型式登録」と「機材情報登録」を運用しています。日本のハンググライディング初期に始まった「型式登録」はJHF安全性委員会が審査し判定。手続きが完了した機体に登録番号を付与、JHFが登録証明書を発行します。また、2010年11月より「機材情報登録」を、より広い範囲の機体情報を提供するために追加運用。この「機材情報登録」は、輸入者／製造者／販売者が、販売機材を届け出て登録を行うことで責任の所在を明らかにし、JHFとして実態を把握することを目的としています。

機材 情報 登録機				
登録番号	H-0017～0019	H-0021～0022	H-0023～0025	H-0026～0028
登録年月日	2016年7月29日	2016年7月29日	2018年7月17日	2018年7月17日
製造者	North Wing Inc.	North Wing Inc.	North Wing Inc.	North Wing Inc.
製造国	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国
型式	Freedom	Liberty	FreedomX	Pulse
認証	US HGMA	US HGMA	US HGMA	US HGMA
推奨技量	C証	C証	P証	B証
推奨体重 (kg)	59～131	72～124	59～131	40～118
輸入者名 (販売者)	i-hang	i-hang	i-hang	i-hang
URL	http://blog.kitanowing.com/blog-entry-1.html	http://blog.kitanowing.com/blog-entry-2.html	http://blog.kitanowing.com/blog-entry-7.html	http://blog.kitanowing.com/blog-entry-6.html

日本チーム、接戦をかわして国別総合3位!

7月8日-21日 マケドニア共和国Krushevo 報告: チームリーダー 浅井将平

8回目のクラス5世界選手権がマケドニア共和国Krushevoにて7月8日～21日に開催されました。世界選手権は、各国代表6名のチームからなる国別総合及び個人総合で争われ、国別総合はタスク毎に各国上位2名の得点を計上しその合計点、個人総合は成立タスク全ての合計点の結果となります。11日間のコンテスト期間中、初日から6日連続でタスク成立、レストデイと強風でのキャンセルが2日間、合計8本のタスクが成立する好条件となりました。

Task1●105.5km

西側の山沿いを南下(27km)、平野を渡り北東(25km)、東側の山沿いを南下(25km)、平野を北上(29km)して飛行場ゴール。雲が多く雲底も低い渋い条件。スタートから独走したWolfgangが2位に30分以上の大差を付けトップゴール。日本チームは板垣5位、太田11位、宍戸14位の3人ゴールで国別総合3位につける。

Task2●144.9km

山沿いを北東(24km)、ギリシャ国境付近まで大きく南下(70km)、平野を西(10km)、平野を北上(41km)して飛行場ゴール。前日より好条件となる見込みだったがスタート直後は渋く、板垣が第1ターンポイント前で

降りてしまう波乱。岡田も対地50mまで低くなるが驚異の粘りで復活し、日本チームで唯一のゴール。国別総合はイギリスに抜かれ4位に後退するが、点差は100点以下。

Task3●165.5km

山沿いを北東(20km)、テイクオフに戻り西側の山沿いを南下(47km)、平野を渡り東(34km)、また平野を渡り南西(23km)、平野を渡り北東(38km)、平野を西(5km)で飛行場ゴールのジグザグタスク。最南端の第4ターンポイント付近はサーマルがとても少なく、どう北へ折り返すかがポイントとなった。Timが2位に30分弱の大差を付けトップゴール。日本チームは太田が数度のスタックを乗り越え唯一のゴール。3位のイギリスとの点差は600点に広がる。

Task4●131.9km

山沿いを北東(25km)、ギリシャ国境付近まで大きく南下(75km)、平野を北西(25km)、南下(7km)してビトラ北ゴール。Wolfgangが2位に20分以上の差を付けトップゴール。日本チームは板垣3位、岡田12位、松田19位、宍戸25位で4人ゴール。3位のイギリスとの差は約500点とほぼ変わらず。

Task5●121.5km

北～北東の風25km/hの強風。西側の山沿いを北上(11km)、テイクオフに戻り南下(17km)、その後は平野をジグザグに4回渡り南下していくタスク。日本チームは板垣1位、松田9位、岡田13位、宍戸14位で4人ゴール。板垣が1000点を獲得し国別総合を3位に引き上げる。4位のイギリスとは130点差。

Task6●165.1km

山沿いを北東(24km)、西側の山沿いを大きく南下(60km)、平野を渡り北東(49km)、平野を南西(33km)、平野を北上(8km)でビトラ北ゴール。第2ターンポイントは最も高い山の2kmシリンダーで2000m以上の高度が必要、第4ターンポイントは半径21kmのビッグシリンダーで、どこでタッチして折り返すかはパイロット次第。日本チームは板垣9位、松田10位、太田11位で3人ゴール。国別総合は3位を維持するも4位のイギリスとは僅か70点差。

Task7●106.5km

北～北東の風25km/hの強風。西側の山沿いを北上(7km)、その後は平野をジグザグに7回渡り南下していくタスク。日本チームは岡田がトップから9分差の3位、板垣5位、宍戸8位で3人ゴール。4位のイギリスとの点差を900点に広げる。

Task8●102.4km

大会最終日。山沿いを北上(9km)、平野を渡り南東(56km)、平野を北西(17km)、平野を南下(19km)、平野を北上(2km)のビトラ北ゴール。



大量ゴールのTask8。ゴールしたグライダーがズラリと並んだ。



ゴールを喜ぶ板垣。国別総合3位を取り戻した。

当初はオーバーキャストだったため控えめなタスク設定となったが、その後好転し31人の大量ゴール。日本チームは板垣9位、岡田13位、太田16位、柳田22位、穴戸24位、松田26位で全員ゴール。国別総合順位を3位で確定させた。

最後に、JHF、ハンググライディング競技委員会、HangAid2018、回収及びサポートとして同行していただいた富岡さん、皆様の応援、協力のおかげで、国別総合3位のメダルを獲得することができました。この場をお借り

して感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

成績

[個人総合]

- | | | | |
|-----|---------------------|--------|-------|
| 1位 | Wolfgang Kothgasser | オーストリア | 6999点 |
| 2位 | Tim Grabowski | ドイツ | 6363点 |
| 3位 | Robert Bernat | ドイツ | 5648点 |
| 7位 | 板垣 直樹 | | 5082点 |
| 12位 | 岡田 伸弘 | | 4270点 |
| 17位 | 穴戸 俊之 | | 3827点 |
| 22位 | 松田 隆至 | | 3378点 |
| 23位 | 太田 昇吾 | | 3355点 |
| 28位 | 柳田 崇 | | 2396点 |

[国別総合]

- | | | |
|----|--------|--------|
| 1位 | オーストリア | 13051点 |
| 2位 | ドイツ | 12525点 |
| 3位 | 日本 | 10440点 |



銅メダル獲得の日本チーム。左から板垣、穴戸、柳田、浅井、松田、太田、岡田。

第41回鳥人間コンテスト

滑空機部門446mで日大生産工学部が連覇

7月28日・29日 滋賀県彦根市琵琶湖松原水泳場 報告：山本 貢

7月28日・29日、台風の接近でその開催が危ぶまれた鳥人間コンテスト。残念ながら人力プロペラ機部門は不成立となったが、今年は滑空機部門のみ何とか成立させることができた。

滑空機部門でまずフライトしたのは、首都大学MAPPL。弱風の好条件の中450mも飛ぶが、残念ながら補助員落下のため、失格に…。実はこの記録、成功していれば歴代4位であり、また学生記録でもあったため、その失格が非常に惜しまれた。

また、茨城大学が経験者ゼロのなか

で参加。パイロットの綿谷氏は足尾でハンググライダーの練習を懸命に行い、そのフライトに成功。今後の活躍が期待される。

台風が近づいているわりに、意外に風が穏やか……好条件の中、滑空機部門の競技は進められるが、なかなか好記録が出ない。

そして、遂に王者、三鷹茂原が登場。しかし…。風のいたずらか、左翼だけが完全に失速し、まさかの墜落。

芸術品のような美しい仕上がりの機体「MAG-MAX」は、無残にもバラ

バラとなってしまった。パイロットの大木氏も落胆…。彼の左肩には何とかしようともがいた跡が残っていた。機体が完全に壊れたため、来年の参加は難しいと話されていたが、何とか復活していただきたい！

滑空機部門最後のフライトは、ディフェンディングチャンピオンの日大生産工学部。今年も見事なフライトで446mを飛んで優勝。

滑空機部門は、今まで三鷹茂原の独壇場になっていた感があったが、学生チームが実力をつけてきたため、今後の展開が面白くなりそうだ。

続いて人力プロペラ部門も開催されたが、すでに台風の影響が出始めて、風が荒くなり始めた。4機の機体がフライトするも、その多くが荒れた風の中、設計値以上のGが機体にかかり翼が折れてしまう。結局、人力プロペラ部門は不成立という残念な結果に終わってしまった。

*JHFは同コンテストに協賛



茨城大の綿谷氏。足尾でハングを練習した。



滑空機部門で連覇を果たした日大生産工学部。

JHFからのお知らせ

■補助動力副読本を頒布しています

「JHFパラグライディング教本副読本[動力付きパラグライダー(補助動力技能証/MPG技能証課程)]」を頒布中。

動力を使用したパラグライディングの練習のポイントと最低限の基礎知識を載せており、パラグライディング教本とともに繰り返し読んで、安全で楽しいフライト活動の助けにしてください。初心者の方はもちろん、すでに技能証をお持ちの方も、ぜひ。

価格・申込方法:

頒布価格1,000円(送料別)。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。注文書はJHFウェブサイト「書籍情報」からダウンロードできます。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中です

基礎技術DVD「JHFパラグライディ

ング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・申込方法:

頒布価格それぞれ1枚1,500円(送料込)で、お申し込み10枚毎に2枚追加

してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail: info@jhf.hangpara.or.jp

https://jhf.hangpara.or.jp/

*このJHFレポートには賛助会員からのお知らせを同封、神奈川県在住の方に県連盟からのお知らせも同封しています。

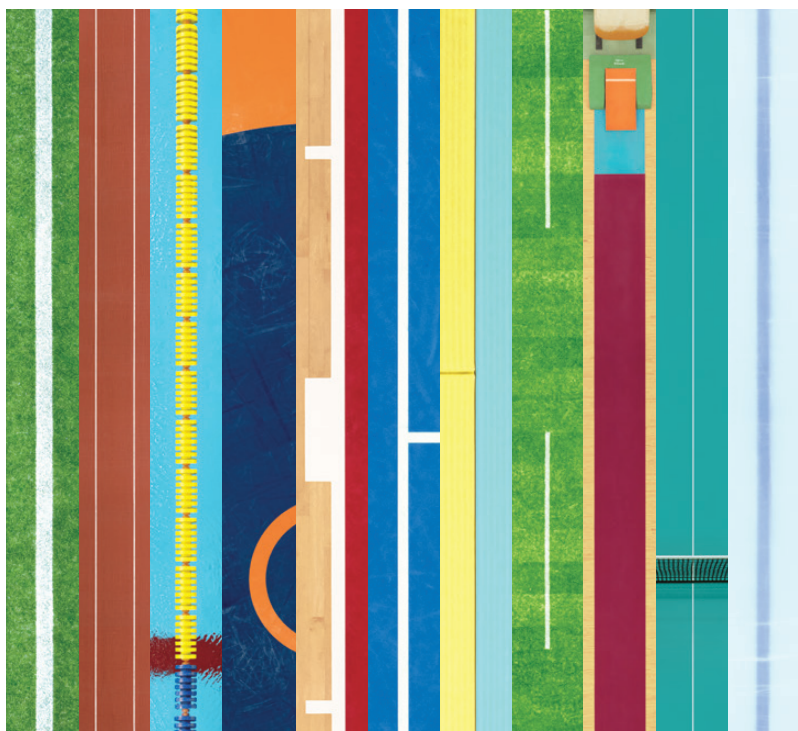
JHFレポート223号

発行日: 2018年(平成30年)10月20日

発行: 公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟 (JHF)

編集: JHF事務局

印刷: 株式会社サンライズ



誰もが世界一になれるわけでもない
誰もが日本代表になれるわけでもない
それでも人はスポーツをする
昨日の自分に追い越されないために
明日の自分を追い越すために
スポーツに鍛えられた人生は
勝っても負けても きっと負けない

スポーツは、
自分を超越するためにある。

スポーツくじ



スポーツくじ(toto・BIG)の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。
www.toto-dream.com www.toto-growing.com
①9歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売:独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアーで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員(JHFウェブサイト)にバナーを掲載)からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を14台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります(1年以下の懲役または100万円以下の罰金)。うっかり忘れていたということのないようお願いします。